

令和5年度の取組み状況

(1) 小・中学校・特別支援学校の児童生徒を対象とする取組み

◆ “いじめ・非行をなくそう” 標語の募集及び全県広報

- ・県内の全小中学校及び特別支援学校に対し、いじめの防止・根絶に向けた標語を募集したところ、合計53,068点の応募があり、各地区ごとに審査が行われ、下記の4点が優秀作品に輝きました。

【令和5年度“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動優秀標語】

村山地区：その文章 スマホの向こうで 泣いてるよ

(河北町立河北中学校3年 太田 琴海さん)

最上地区：守りたい 私の言葉で あなたの笑顔

(大蔵町立大蔵中学校3年 門脇 里奈さん)

置賜地区：「どうしたの」「だいじょうぶ」 やさしい声が 心をひらく

(白鷹町立荒砥小学校4年 安部 晏理さん)

庄内地区：助けたい 自分の勇気で 変わる未来

(庄内町立余目中学校2年 梅木 愛咲さん)

- ・優秀作品については、青少年の健全育成に携わる関係者が一堂に集う山形県青少年健全育成県民大会（開催日：令和5年10月29日、場所：新庄市民プラザ）の場で作者が表彰され、“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動ポスター等各種広報媒体に掲載されました。

(2) 高等学校の生徒を対象とする取組み

◆ 高校生徒会等によるいじめ防止スローガンの作成、いじめ・非行防止ポスターデザインの募集

- ・県内の各高等学校において、生徒会等が主体となって“いじめをなくそう”スローガンを策定し、学校ごとにスローガンの実現に向けた様々な取組みが行われました。
- ・県内の高校生を対象に、“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動のポスターデザインを募集したところ、計12点の応募があり、審査により優秀作品が選ばれました。

◆ 「児童・生徒と地域の大人の対話会」の実施

県内4地区において、子どもと地域の大人が互いに向き合い、いじめ防止のために何ができるのかを考える対話会が行われました。各地区の実情に応じて、小・中学生との対話会が行われたところもあり、大人と子どもが真摯に向き合うことでお互いに学んだことも多く、地域と子どもとのつながりが大事であると再認識できました。これまでの活動や各地区の取組み状況を共有し、今後の更なる運動推進を目指します。

(3) 県内の各地域における取組み

◆ いじめ・非行防止セミナーの開催（山形県青少年健全育成県民大会の中で開催）

青少年の健全育成に携わる関係者が一同に集う山形県青少年健全育成県民大会の場で、東京家

政大学人文学部教授の杉山雅宏氏による「青少年の心の声を聴かせていただく～今どきの若者とのつながりを模索して～」と題した講演と、最上町の事例発表を実施しました。講演では、「コミュニケーションとは会話のキャッチボールである。今の子どもたちへ大人から声をかけ、話を受け止める。また、価値観は多様化しているため、私たちの価値観だけが全てではない、若者の価値観を尊重することも必要。守ってさしあげるといふゆとりも私たちは持つ必要があるのではないか。」などとお話いただきました。事例発表では、最上町青少年育成町民会議が日ごろの活動について発表し、その内容を共有することで、各地域における活動の在り方について理解と関心が深まりました。

◆ 地域の大人のためのインターネット利用に関する研修会の開催

令和5年11月28日に県庁講堂で実施し、消費生活センターの安達美紀氏を講師に迎え、「若者のインターネットトラブルの現状と対策」と題し、インターネットを介したトラブル事例や、消費者トラブルを防ぐための注意点や対策について、講演いただきました。

(4) 各種媒体による啓発活動



山形県立山形中央高等学校 2年 清野 大志さんの作品がポスターデザインに選ばれました。

◆ 地域県内民間企業と連携した啓発活動

モンテディオ山形と連携し、山形県総合運動公園にて令和5年11月12日の試合会場等で啓発活動を実施しました。